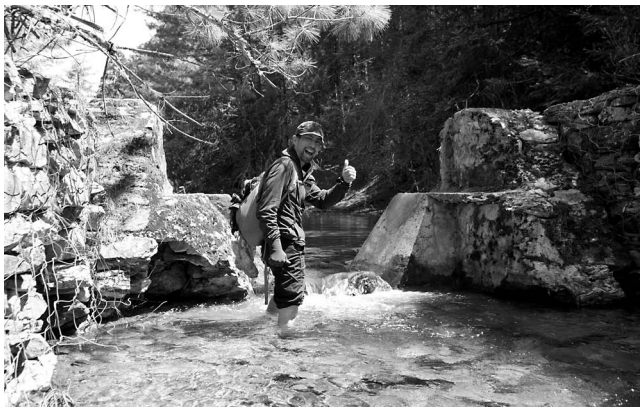
2022.3.31−4.16 Jumula〜Mugu〜Humla
〜ヒマラヤの沢の可能性を探る旅〜

佐　藤　裕　介（鶴城山岳会）

メンバー：岩崎　洋、佐藤裕介（記）

2021年の秋、日本ではコロナが落ち着きつつあった頃、いつも海外の沢にいっているメンバーが顔を会わせ山梨でミーティングを行った。目標はヒマラヤの沢。

大きな可能性を秘めているであろうヒマラヤでの沢登りの記録はほとんどなく、私が知る限り茂木パーティーによる記録があるのみである。その山行は登攀的な要素の少ない歩き中心の沢登りであった。もう少し踏み込んで日本や海外で今まで行ってきた、滝があったりゴルジュがあったり登攀的な要素も含まれる沢登りを私は誰の言ったことのないヒマラヤの沢でしてみたいと願っていた。しかし、許可申請などが煩雑そうなヒマラヤの沢に対して二の足を踏み続け、いままで実現しなかったのが私にとってのヒマラヤの沢登りである。



ララ湖の水門

基本、全て手探りでの山行である。ヒマラヤ方面の知識の乏しい我々だけで計画するには無理があったので、ヒマラヤ方面の情報を豊富に持っている岩崎洋さんにもゲストで参加してもらい話を聞かせてもらいながら皆で酒を飲んだ。私は富士山の仕事でも岩崎さんにお世話になっており今回のネパール行きにも是非同行してもらいたいと願っていた。絶対に楽しいネパールになるはずだ。

結局、この日はベロベロに酔っぱらい「プレモンスーンの春にネパールに赴き沢を登ってみたいね」という凄まじく大雑把な方針だけが決まった。出国時コロナが落ち着いていたらという前提条件がつきだ。ミーティング直後からオミクロン株の流行が世界的に広がり日々状況が変化していて、中々計画を決定することができずに年を越した。オミクロン株の流行が日本も広がりメンバーそれぞれの職場の制約等から、今回の計画に集まっていたメンバーは次々と断念することになった。最終的に残ったのは佐藤と岩崎の２名のみ。

未知ばかりのヒマラヤの沢登りという魅力はとても大きかったし、ネパール初心者（実は初ネパール）が岩崎さんに付いてネパールを旅できるということも大きな魅力だった。

私は登山ガイドを生業にしており、仕事の予定はコントロールしやすいのでコロナを言い訳に断念するのではなく、いかにして行くのかだけを考えていた。混沌としたコロナ禍での海外登山も、ヒマラヤの沢だってやってみなければ始まらない。不確定要素を受け入れ、その中で全力を尽くしてみたいと思っていた。

出国してネパールで自由な行動ができるのなら帰国後の隔離期間等が多少厳しくともなんとか行ってみたいと、出国に慎重だった岩崎さんを押し切って計画決定した。チケットを購入したのはなんと出国20日前である。条件は２人とも３回目のワクチンを接種して行くこと。

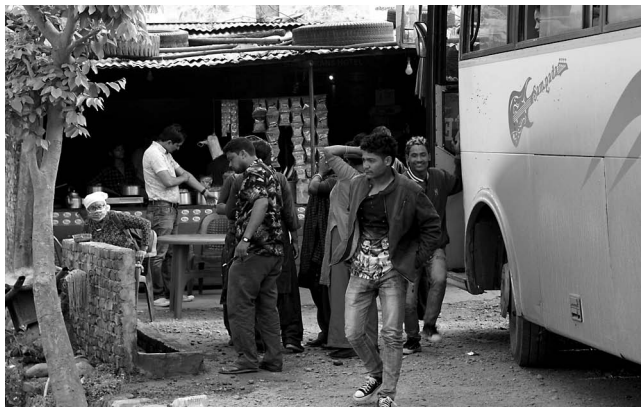
待ちに待った出国予定日、自宅の引っ越しなどとタイミングが重なり慌ただしい日本の生活が続きほぼ徹夜で成田へ運転することになった（コロナ禍による渡航者の減少により地方から成田空港行きのバスも軒並み運行中止)。私にとっての核心の一つと思っていた運転を無事終え、楽しく遠征が始まると思っていたのだが、カウンターで落とし穴。2022年３月の時点で、ワクチン接種者はネパール入国時、PCR陰性証明の提出が不要になっていたが「トランジットのマレーシアでPCR陰性証明が必要」とマレーシア航空から指摘があり搭乗できないというありえない事態に。マレーシア大使館に問い合わせると「トランジットでは不要ですねえ」と当たり前の様に言われるが、マレーシア航空としてはダメだそうで。どうしようもなく、今日はフライトキャンセル。明日はマレーシア航空が飛んでないので２日後のフライトを取り直し、PCR陰性証明と共にやっと出発だ。ちょうど現地の祭日？と重なったらしくエコノミーは満席、人生初のビジネスクラスで飛び立った。
※悔しいことにクアラルンプールのトランジット時PCR陰性証明を見せる機会は結局訪れなかった。

カトマンズ到着後、エージェントに向かいパッキングと翌日のバスチケットを手配した。

元々、余裕のない日程が２日間も短縮されてしまい遅れを取り戻すべくこの後、強行軍が続くことになる。

４月２～４日。

16：30。スルケット行きのバスに乗り18時間の長時間移動だが、まだこれは始まりにすぎなかった。スルケット降車後、数時間後のボタ行きのバスチケットをゲットし茶屋で食事＆仮眠後、また長距離バス移動。夜中に乗客全員が宿で一旦仮眠を取り運行再開。距離はそれほどではないと思っていたがバスにとっては悪路が続きまさかの３回目の夜を迎えて目的としていたボタ付近（シンジャ）に到着した。結構グロッキーだった私に対し、岩崎さんは平気な顔してロキシーをあおっている。やはり、このおじさんは只者ではない。



西へ向かう車窓から、マスクをした人は極端に少なかった。

４月５日。

7：00シンジャー（2500m）－コル（3300m）－18：30ララ湖下流本流出合付近の村(2500m)

今回前半の狙いはネパール最大の湖、ララ湖を沢から目指す旅。今回は３ヶ所の入域許可を得ている。岩崎さんが懇意にしているガイド（ハスタ）とポータ１名が同行した。私達が沢に入る際はガイドたちはトレッキング道から行きどこかで待ち合わせると言う方法で進んでいった。沢に入る距離は長くないので宿泊は一緒にすることがほとんどである。軽い荷物でお気軽トレッキング風に進んでいくことが多く、こんなに楽チンで良いのかなと思うほど。また、

昔岩崎さんが訪れた時より予想以上に民家が多くなっていて宿泊はほとんどが民泊となった。夕食もそこで頼んだ。朝食は無しで10時頃に民家があればお茶を貰ってブランチもお願いする流れが多かった。

行動食、KTMより持参した水牛の干し肉

ララ湖に続く本流に向かうべくまずは山越え。谷を登りコルを乗越してから反対側の沢を下降してから本流に入る予定だ。予想以上にジープ道が上部に続いており、道路工事も着々と進行している。今回たどったラインは下部のみ車道だったが方面を変えてコルを目指せば車でコルを越えることも可能であった。遠目にジープが走っているのを見るのは少々興醒め感あったが、実際私達が辿ったラインはのどかな山村が続いていて気持ちよくトレッキングができた。コルを越えて沢に向けて下降開始。途中からガイド、ポーターと別れ、沢装備で沢を下降した。薄い板状に割れる岩が順層に積み重なっていて沢の下降であるのにそれほど歩きにくくはない。途中から側壁は石灰岩の様相が強くなり傾斜の強くない沢であるもの所々見下ろす傾斜の強い部分では巻きにくい形状だ。少し不安にさせる場面が何度かありせめてロープくらいは持ってくるべきだった。

実際は最後以外、大した滝は出てこず順調に下降した。あと500mで傾斜の緩い平沢に合流と言う所で巻きにくい10m滝が現れる。ロープ無しできてしまったので無理せずに沢から離れた。少し手前の踏み跡から尾根に入り村人が使っている道から平沢に降り、本流目指してさらに下る。意外と時間がかかり、いきなり残業。暗くなった頃、民家にたどり着き宿として利用させてもらった。美味しいダルバードをいただきお酒も進む。

４月６日

6：30村（2500m）－14：00ララ湖（3000m）－19：00村（2400m）

早朝から宿を出てトレッキング道を進むが、完全に二日酔いで気持ちが悪い。沢に入ってジャブジャブ歩くとだんだんと酒が抜けてきて快調になった。トレッキング道が沢のわりとすぐそばを通ることもあり、村人が「何してんだ？」と呆れ顔で見てるという中々シュールな風景だった。昨日と違って湖か

１本目の沢

ララ湖へ向かう沢

ら流れる本流は冷たく今回地下足袋とわらじスタイル（ネオプレーンなし）ではかなり辛い。

昼前に沢がゴミで汚くなって来たのでトレッキング道に上がってしばらく行くとお茶屋がありそこでお茶＆ブランチ。お茶屋以降は綺麗な渓相に戻ってララ湖直前からは再び沢に戻ってララ湖まで辿った。ネパール最大の湖らしく対岸が霞んで見えるほどである。ここを半周してからこの周辺で一番大きな村ガムガディ目指して下る。ここからも予想以上に長くガムガディ手前の村で暗くなった。今日も12時間越えのハードなトレッキングだった。

此処で２日目ランチ

４月７日

村～ガムガディ２時間程度

短い行程でガムガディ着。超長時間のバス移動につづき12時間行動が２日も続いたので、今日は半分

ララ湖を挟んでESE方面を見る。Kande Hiunchuliの遠望を期待したが見えなかった。

レスト。ガムガディの宿でゆっくりする。写真１２

４月８日

6:30ガムガディ宿発

8:30-9:00 2750m

峠手前標高差100m　ナマステSIM　OK

峠ダメ　以降Limiまで不通

13:00峠3,570m

17:30 2700m　宿1550

後半は今回のネパールのメイン的な山行である。20年前に岩崎さんがトレッキング中に撮影した「ゴルジュから最後がスッキリした壁」という場所を特定し沢を偵察すると言うのが目標だ。この壁とゴルジュが良ければ、２年後には「今回辿るトレッキング道ではなく下流から沢通しにゴルジュと壁を目指す沢登りをしてみたい」と思って今回の偵察山行が決まったのだ。

ガムガデイから前回の写真を撮ったと思われるトレッキング道の終点付近ダルマまでジープで進入可能とのこと。岩崎さんは信じられんと嘆いている。開発が進みトレッキングとしての面白味は薄れてしまったが現地の生活を考えると仕方がないことだ。

ダルマまで２万ルピー(１ルピー＝約１円)。峠手前までなら5,000ルピーだったので峠手前まで頼むことにして早朝ジープに乗り込む。峠手前の村までジープでも２時間強かかり、歩くのは今回の日程では厳しい道のりだった。峠手前の村（2800m）でジープを降りラーメンを作ってもらい腹を満たして出発。村の小学生達も下の村にある学校へ通学していった。

ここから3500mの峠までは標高差800m。ジープ道と別れトレッキング道を登って行く。峠までに数軒と峠自体にも何軒かの家があった。

峠からは基本下り基調でダルマ方面に行くはずだ

が車道をショートカットしながら下った後、ダラダラと登り返す。なんで「登りなんだよ～」と岩崎さんの嘆きを聞きながら進むと道路工事事務所があった。ここからはまた下っていく。事務所の設置をここにしたかったから道が登ってたようだ。

どんどんと下っていくと一軒ぽつりと立つ家があり時間も夕方になってきたが、目的の壁に近づくべく今日も日暮れ近くまで頑張り2700m地点の家で一泊。

調子よくロキシーやバーボンを飲んでしまい撃沈。美味しいダルバートを全て大地に戻す。食事を用意してくれた家の方に本当に申し訳ない。ゲロを吐きまくり、ヨレヨレになりながらも明日は勝負所だ。お茶無しで6時に出ましょうと偉そうに宣言し寝る。

4月9日

6:05宿

8:30−10:00 Limi

12:30−13:00 2300m出合

14:45−14:50 ゴルジュ出合−偵察15:40

17:30 2300m出合

今日はあの壁が見れるはずだ。気合いが入る。暗いうちから起き出し6時に出発。

昨夜のゲロを横目に見ながら快調に歩き出した。Limiまでは下り気味のトラバース手前から壁が見えだし一気にテンション上がる。写真をたくさん撮りながらLimiへ。お茶とダルバートを頂いてから

今回の偵察目標周辺

いよいよ沢に向けて2人で出発した。一先ず目標は出合いへの到達と、ゴルジュの偵察。

Limi下流の枝沢に簡単に行けると思って旧道から下り始めたが途中で踏み跡無くなり傾斜も強くなって断念。この傾斜では旧道もここでは無かったようだ。引き返し村人が、沢に降りられると言っていた斜面に入る。ゴルジュ出合い付近を直接目指して斜面を下るのだが、かなりの傾斜で直接ゴルジュ出合方向には降りられず、上流の支流出合付近にトラバースしながら降りる。村出発から2時間半もかかってやっと本流に到達。ゴルジュ出合から1km上流に来てしまったので沢支度を整え本流を下降する。本流は思っていたよりも傾斜があり水量も豊富。本流系の迫力ある沢らしい沢であった。何度も渡渉を強いられる。今回は短い行程だし気温が高い（日中15−20℃）ので耐えられるがネオプレーンソックスなしの地下足袋＆ワラジでは長い遡行には耐えられそうもない。次回はネオプレーンソックスを用意しよう。

渡渉に加え大木の橋渡りも何度も出てきて少々緊張するが楽しい。初めてのヒマラヤの沢でこんな素晴らしい沢に出会えたことに心底感動した。ゴルジュ出合いまであと少しという場所でヤギ飼いの村人2人に会う。私達もびっくりだが村人はもっと驚いただろう。沢をジャブジャブ渡渉するなんてこと村人にとっては通常ありえないこと。馴れたヤギ飼いでなんとか来れる場所に外国人が突如現れたのだから驚くのも無理がない。ここは危ないんだぞ、クマも出るんだぞと脅されたが仲良く写真を撮って別れた。

後半は時間重視で巻けるところは巻いて急いだつもりだったが、遡行内容が濃過ぎてたった1kmに1時間45分もかかってしまった。上流の出合いに泊まり道具はデポしていたので同じ沢を今日中に戻らなければならない。明るいうちに戻るにはここまでかなという雰囲気だったが、わがまま言ってゴルジュ

に続く支流を独りで偵察させてもらった。出合から10分もしない内に水は伏流してほとんど流れがない部分が出てくる。15分登ったら引き返し帰ってくると言ったのに、もう少しでゴルジュになりそうだと歩みは止まらない。予定時間をオーバーしながら、ゴルジュの入り口に到達した。意外とゴルジュ内は普通に歩けてしばらくは難なく行けそう。水流も回復している。ゴルジュの奥がどうなっているかは次回のお楽しみにして、待たせてしまっている岩崎さん目指して急ぎ下る。

本渓を降る

寒さに震える岩崎さんと合流して、上流のデポ地を目指した。途中一気に巻いてしまおうと大高巻きに入ったが行き詰まり40mロープで２回の懸垂。デポ地直前で雨がチラつきカッパを着て進む。行きよりは時間かからずに戻って来れた。夜は雨を心配してタープをしっかり張ったが、徐々に回復し半月に近い月をめでながら焚き火横で夜を過ごした。「焚き火にはバーボンだよね」と言う岩崎さんとバーボンを舐めながらの最高の夜が更けていく。

４月10日

7：20ビバーク地

7：25出合

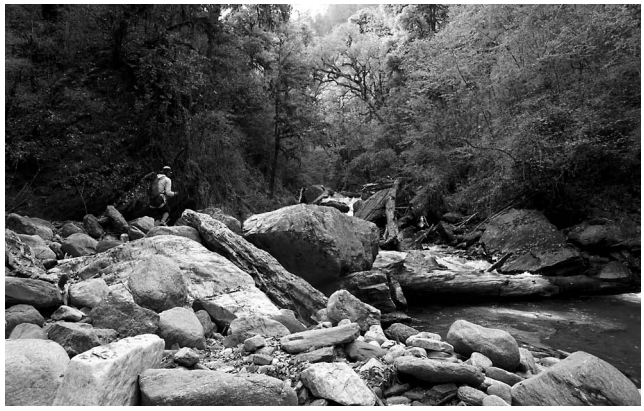
10：30−11：55 2700m小屋宿（道路工事事務所）

天候は回復し、今日はしっかり晴れた。岩崎さんは沢と別れハスタたちが待つ小屋（２日前の宿と同じ）向けて直接登り、佐藤は二股を越えて下降路として有力な沢の出合まで遡行。本当に下れるのか偵察することにした。

ビバーク地から５分程で支流が出合う。直ぐに行く先がゴルジュっぽい雰囲気となり、出発前少し懸念していた地図の細い直線部分がしっかりゴルジュとなっていた。初っ端の滝は５m程と高差のない滝だが谷筋いっぱいに水が落ちる滝で相当頑張らないと登れそうに無い。今日はもちろん巻き意外の選択肢はなく右岸から高巻く。獣トラバース道を使いながらゴルジュ帯２−300mを巻いていくが眼下に見える谷は素晴らしいゴルジュとなって10個ほどの小さ目の滝を持っている。どれも突破はかなりの厳しさに見えた。

ゴルジュを抜けると対岸（左岸）に滝が見えた。

宿泊地



上流へ向かう

ほぼ垂直に水を落とす100m程の滝である。この沢の下降は厳しいのかと思わされたがよく見ると滝の左にテラスがあり、ちょうど50m２回の懸垂で降りられそうにも見えた。その上部の沢は問題なくやはり有力な下降路になりそうだ。

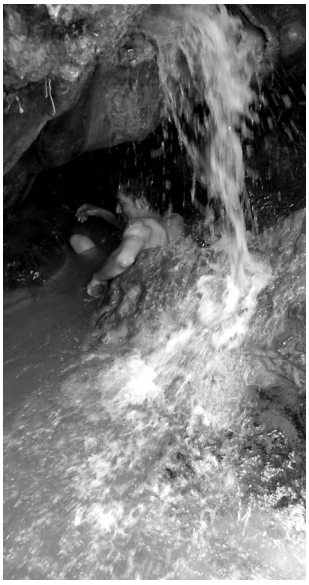
ビバーク地を出発する前には右岸の支流出合に戻りトレッキング道に登り返しかなと思っていたが、今巻いている最中の斜面を登りトレッキング道に出られそうだ。その斜面を１時間半の登りで見覚えのある青い小屋に到着。目的の小屋までは僅かだ。

小屋直前で歩いている岩崎さんと会い、予定通り10：30到着。

お茶とダルバートを頂き、帰り路のスタート。3200mの小屋向けて出発した。

意外と時間かからず小屋（道路工事の事務所）に着いて久々に頭を洗ったり洗濯する余裕ができた。

４月11日
6：00 事務所
9：30 峠3,570m
12：00−13：30 2700m村
（ここからジープ）
14：50 温泉P
15：30−16：30 温泉
17：00 ジープ
17：50 ガムガディ


Mugu・Kalnali Nadi沿いの温泉に浸かる

ハスタがコーヒーを作ってくれてそれを飲んで６時過ぎ出発。今日の工程は余裕なのでのんびりと歩く。前々日の小雨でだいぶ大気が澄んで峠から見る山々もスッキリと見ることができた。峠から30分下った所にあった家で茶とラーメンを頂きスタート地点となった村目指した。

ゆったりと下ってもお昼に村到着。

ジープでガムガディ向かうが途中の温泉に寄り道。30分程の歩きで立派な鉄分多めの温泉でマッタリと湯に浸かる。最高の締めくくりとなった。

〈今回の装備〉

今回の装備等－１

今回の装備等－２

今回の装備等－３